HELLO PSJ

花のスイス留学

Department of Physiology, University of Bern, Switzerland　村山　正宜

スイスの首都と聞かれれば，ジュネーブ，チューリッヒまたはバーゼルなどを挙げる人がいるかもしれませんが，間違いです．正解はベルンです．

私は2006年に東京薬科大学（工藤佳久名誉教授・宮川博義教授）で博士号を取ってからすぐにベルンにやって来ました．ボスはMatthew　E. Larkum助教授（写真1）です．助教授といっても日本のシステムとは違って，完全に独立しており，僕のほかに二人のポスドク，二人の学生を指導しています．ボスはBart Sakmann教授のお弟子さんで，2003年8月にスイスで研究室を立ち上げました．ボスは脳スライス標本において，樹状突起の三箇所から同時パッチクランプを行える「神の手」をもっているお方です．ボスは40歳をすこし過ぎましたが，新皮質一層の樹状突起から，まだパッチを行っています．そんなボスの下，私は生きたラットの脳における樹状突起活動を光学的に記録しています．

今回は研究の話というよりは，スイス留学について皆様にお伝えしようと思います．

まずスイスですが，結論から言いますと最高です．

最高ですか？と聞かれれば，最高ですと答えます（宗教とは関係ありません）．非常に頭の悪い書き方ですが，本当です．では，何が最高なのか？全てです．本当だから，仕方がありません．では具体的に書きます．

まずは研究環境について．ここでは研究に没頭できます．雑務がほとんどありません．電気工作や機械工作は専門の職人さんがやってくれます．ですので，研究に没頭しすぎて時々お昼を食べ忘れて低血糖になり，手が震えてしまう事もあります．気がつけば夜になっていて，娘が電話越しに泣きわめいているのを聞きながら，妻に「いつ帰ってくるの？」と激怒されます．これが続くと，いよいよ妻に「帰ってこないでいいよ」と言われます．家庭崩壊の危機です．

治安について．スイスにもヤンキーはいますが，夜9時になると帰宅します．可愛いものです．夜中の4時まで実験して，徒歩で帰宅することもありますが，今まで身の危険を感じた事はありません．ただ，これが一週間続くと，健康面で危険を感じます．

給料ですが，日本のポスドクの平均的給料の倍は貰えていると思います．しかし，物価も日本の倍です．場合によっては5倍です．例えば，納豆3個1パックが500円します．スイスは海に面していないからでしょうか，寿司10巻（うち数個は

写真1：左から筆者，Prof. Dr. Larkum，Mr. Bock，Dr. Pérez-Garci

写真2：草サッカーの仲間．日本人が筆者（同定可能だと思います）．素足でサッカーをやる人もいます．
グループのURL；http://www.physio.unibe.ch/Dendrites/
私のURL；http://www.physio.unibe.ch/~murayama/

かっぱ巻き）で2000円します．ボッタクリです．今回は寿司の質については明言を控えさせていただきます．

生活ですが，これまた素晴らしい環境です．酪農品が美味しいです．ベルンは首都ですが牛と老人が多く，そのせいか，娯楽施設がほとんどありません．当然ですが，プリクラやカラオケはありません．しかし，牛やトラクターの品評会があり，これは盛況です．ここでは，酪農を営む本物の若い娘が，何故かトラクターや牛を背にヌードとしてカレンダーに登場しており，これまた何故かそのカレンダーが飛ぶ様に売れています．ベルンでは遊ぶ所が無いので無駄遣いすることが無く，何とか暮らしていけます．しかし，日本人妻たちは徒党を組み，旅行に行かせろと団体交渉を迫ってきます．ストライキされないよう，ギリギリのラインで交渉に応じています．

休日の過ごし方ですが，頭をリフレッシュするため，日曜日はスイスに出稼ぎに来ている労働者や難民と草サッカーをしています（写真2）．今回，その方々との写真を載せましたが，撮影時「この写真は何に使うんだ？職業はなんだ？」と一人の方から不安げに聞かれました．あとから聞いた話では，彼は不法滞在者だそうです（写真2，サングラスの彼）．

研究成果についてですが，これはボチボチといったところです．妻の「あんなに実験しているのにぜんぜん論文出てないね」という，叱咤激励・叱咤叱咤のおかげで何本か論文を出せています（本当は叱咤を何回も繰り返したい）．スイス留学前，諸先輩方から「ヨーロッパでは研究がスローだから業績がなかなかでないよ」と脅されましたが，これはボスと本人次第だと思います．何処の国でも同じだと思いました．先にも触れましたが，ここでは研究にのめり込めます．やればやるだけ成果につながると実感します（下記URLを参照）．ただ，頑張りすぎは体によくありません．原因はよく分かりませんが，去年，生まれて初めて血尿が出たときは，正直「死」とい言葉が脳内を駆け巡りました．今年に入り，血便が出た後は，娘のために学資保険に加入しました．

どうでしょうか？皆様に私のスイス留学の様子が少しでも伝わったならば幸いです．留学は楽しい事ばかりではありません．大抵はかなりの精神的，時には肉体的な苦痛を伴います．実際，同僚と喧嘩して去っていった研究者，基礎的な事ができずボス（うちのボスではありません）に首にされた研究者，業績が出ず，出るに出られず一箇所

に長年留まっている研究者を知っています．そのようにならない為に，もしこれから留学を考えている若い方がこれを読んで下さっているのであれば，私は小さなアドバイスをしたいと思います．一部は私の恩師たち（工藤先生，宮川先生と井上先生）からのお言葉でもありました．

踏み込めば，そこは闇です．落とし穴があるかもしれないし，岩で転ぶかもしれない．落盤や怪獣にも注意しなければなりません．これらを意識的・無意識的に避ける為，留学前に十分な精神的・肉体的・実験的トレーニングを積んで下さい．その上で，本当に死ぬ覚悟で，留学先で骨を埋める気持ちで研究に没頭することを薦めます．帰国後のポジションの心配など無用です．心配する時間があるならば，自分の研究をもっと考えたほうがいい．エライ先生をヨイショする時間があるなら，妻をヨイショしたほうがいい．結局は，内助の功が留学成功の鍵ですから．帰国の計画は，論文を出してから考えればいいと思います．私は，帰国時に涙を流して「俺は頑張った」と言えるよう，今はわき目も触れず必死（文字通り，間違いなく死ぬほど）に頑張っています．

最後に，ここに書き上げた私のスイス生活やアドバイスは全ての人に当てはまるものではありません．ひょっとしたら，私だけかもしれません….